



TITLE:

# <書評> 東京都市社会学研究会編： 都市社会学に関する文献総合目録

AUTHOR(S):

多度津, 亮介

---

CITATION:

多度津, 亮介. <書評> 東京都市社会学研究会編: 都市社会学に関する文献総合目録. 経済資料研究 1971, 4: 47-48

ISSUE DATE:

1971-09-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/79654>

RIGHT:

東京都市社会学研究会編  
都市社会学に関する文献総合目録  
昭和45年3月刊 190p.

多 度 津 亮 介\*

本書が刊行されるに至った動機としては、都市の研究に携わる学者の数が果積的に増加する方向にあり、かつ又、その研究分野が、工学、政治学、行政学、経済学等々、広範囲に及んでいるので、「都市学」の成立が果して可能であろうかとの疑問を出発点とし、その成立を可能に示う要件として、多岐にわたる各研究分野で都市研究の方法論確立の営みがなされ、成果の公開並びに批判、反批判をへて築かれてゆかねばならぬとする立場からであった。

従来、都市社会学の分野に於ても、その成立時期が比較的新しいにもかかわらず、研究業績が量的には決して少くない。それらの成果が十二分に止揚される事なく、個々に調査研究が行われている現状では、学の確立には意義あるものとはならない。過去の成果の正しい評価がなされ、方法論が確立される事こそ緊急の課題であるとして、その推進の意味をもこめてこの文献目録が作成されるに至ったのである。いわば3年間にわたる東京都市社会学会の業績の最初の結実ともいえる。

われわれ資料協議会の資料マンとしても、研究者が、有意義な2次文献の作成が、学問の進歩、ひいては文化の向上に資するところ大であるとの姿勢をもたれた事は非常に共感を得るものであって喜ばしい限りである。

まずその収録範囲であるが、明治以降昭和

43年(1968)12月末日までに日本で刊行・発表された都市社会学関係の文献が収録され、市販されない学術紀要等に掲載された論文をも収録したもので書誌的に有用性の高いものとなっている。

収録の研究分野は都市社会学が充分熟さぬ分野のせいでもあろうか、都市社会学に直接、間接に関係あるものも収録されている。

収録文献の形態は単行書、論文、報告書等網羅的に蒐集し、除外するものとしては、書評、座談会、新聞掲載論文、随筆及び「社会学辞典」「都市問題事典」「教育社会学事典」等の辞典・事典類の各項目である。雑誌論文は収録し新聞掲載論文は除外された事は、そこまで範囲を拡大すると内容の吟味に時日と労力を要するのと、「都市社会学」のようにその歴史的蓄積の体系の確立と方法論が当面の課題となっているものについては、雑多な混入はますます体系の混乱を来すので、選択的にならざるを得ないと思うが、少し惜しい気がする。

配列については分類項目別に配列する関係上、分類項目設定については十二分の考慮が払われている。P. K. Hatt and A. J. Reiss (ed.), *Cities and Society*, 1951, Rev. ed., 1957, 等の著名な研究者に採られた研究領域区分を参考にしてまず暫定的項目を設定し、蒐集文献をこれにあてはめ、特定の項目に文

\*. たどつ りょうすけ 大阪府立大学経済学部

献が集中しすぎるか、その逆に文献が殆んど見あたらぬ項目がでてきたり、どの項目にも該当しない文献が多出すると、最初設定した項目に固執せず after-coding 方式により、現存する文献にマッチした新しい項目を設定されたようである。

この結果、11の大項目とその小項目（全体で51、小項目のないところもある）。1文献1項目とし、2主題にまたがる止むを得ないものは若干分類重出を行なっている。論文集は単行者としての分類と個々の論文の分出を行なっている。小項目毎に発行、発表年代順に配列し、書名を9ポのゴシック体にしたのは著者索引が巻末にあるためであろうが、それならばいっそ書名主記入を採っても良かったのではないか。

巻末には著者名索引が50音順で付されており、同一著者（編者）の配列は発行、発表さ

れた文献の年代順であり、各研究者の研究経緯を把握できる点も興味深い。

ただ、著者名の配列が電話帳にみられる字順配列と音順の配列が混合している点が散見されるのは一考を要すべきであろう。

又、共著の場合、第一著者に限定した結果第二著者からの検索が不可能なものも残念である。

更に通例の2次資料が資料単位で収録されているのに比し、特定資料に限定せず、蒐集した文献を一旦、著者ごとに集め直接著者に修正、追加記入等依頼の手続きを踏んでいる点で綿密な編集といえる。

いずれにしろ、本書は都市社会学の研究者に資料検索の便宜を提供し、併せて都市社会学の指向すべき方向を示唆し、今後の研究発展に大いに資するところある著書である事は疑いのないところである。

### 編集後記

学園紛争の炎は消え、一見大学に平和が戻って来たようである。しかし、そこには目に見えた革新もなく、むしろ去脱感だけが後に残ったと感じるのは私だけであろうか。このような私の精神状態が「経済資料研究」の編集遅延の原因になっているとすれば、執筆者各位には誠に申し訳ないことである。特に早くから原稿をいただいていた方々に対しては、失礼この上もないこととお詫びの言葉もない。今後我々の任期中に、何とか発行を軌道に乗せるよう努力すると共に、各位のご協力をお願いする次第である。（越知・小松）

## 経済資料研究

No. 4

1971年9月15日印刷・発行

¥ 200 (〒 45)

編 集  
発 行

経済資料協議会出版委員会  
経 済 資 料 協 議 会  
神 戸 市 灘 区 六 甲 台 町  
神戸大学経済経営研究所内

印 刷

内 外 印 刷 株 式 会 社  
京都市下京区西洞院七条南入ル

発売元

丸 善 株 式 会 社 書 籍 部  
東京都中央区日本橋通 2-6-2